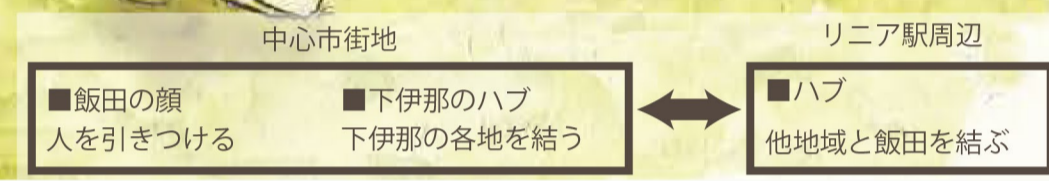


# 丘の上でみちくさ

## ～馬が導く 飯田の暮らしと生業のかたち～



### 概要

飯田の歴史を紐とくと、そこには生業と生活が関わり合っている。馬が草を食みながらゆっくりと歩いていく様子が「道草」の言葉の由来。馬とともに、道草をしながらゆっくりとまちを歩くことで見えてくる新しい飯田の結いのかたち。

### 飯田の発展を支えた馬の歴史

①飯田は昔、馬を育てていた      ②中馬によって商品経済が発達した      ③独特な地場産業・文化が生まれた      ④地区の原動力であった商店街

飯田と馬の関わりは古墳時代に遡る。その頃飯田・下伊那地域は馬の生産拠点となっていたとされる。

飯田が下伊那の中心の町として経済的に大きく発展したキッカケは中馬と呼ばれる運送業が始まって全国の市場と結びついた事であった。五街道にならない伊那街道にも宿場が置かれ、飯田は地域のハブとしての役割を担った。

飯田の自然と伝統工芸  
飯田はりんごやサツマイモなどの天竜川に自生する様々な植物を染料としている。

馬のホルモン料理おたくり  
明治時代後半に入ると、馬の内臓を食べるようになり、おたくりと呼ばれる食文化が生じた。

飯田の中心市街地では、知久町通りと中央通りの商店街が繁栄を極め、信州一の商都と呼ばれた飯田を牽引した。この商店街の活力が飯田の発展を突き動かす力であり、商店街の繁栄なしに飯田の気持ちはありえない。

中馬によってもたらされた経済的豊かさを基盤に、今なお飯田を代表する水引など飯田特有の手工業がされるようになる。また、歌舞伎や人形劇などの文化も庶民の間に広まり、文化の香り高い町となっていた。

### 理想：商店街と生活が関わりながら共に賑わう中心市街地

中心市街地のかつての賑わいの風景と“道”

昭和初期の銀座通りの活気      知久町商店街を東に見た様子(昭和35年)

かつて中心市街地に活気が満ちていた頃、人が“道”に溢れていた。道に車は無く、商店街では道にアイスクリームの屋台が出たり、まちなかではチンドン屋に気をひかれたり、人を道に誘い込む仕掛けがあった。商店街での生業と人々の生活が共に関係し合いながら賑わいを生み出していた。

商店街に人が溢れて賑わいが生まれ、飯田を突き動かす活力になって欲しい

### 中心市街地の現状とその背景

■商店街は衰退してしまった

その背景  
商店街の構造が車に合っていなかった。

中心市街地商店街	H9	H14	H19	H19/H9
店舗数(店)	420	329	261	62.1%
従業者数(人)	1,677	1,329	996	59.4%
年間売上額(百万円)	26,497	16,540	11,701	44.2%
売場面積(m <sup>2</sup> )	36,454	29,910	23,659	64.9%

資料：商業統計

1971年に飯田卸売団地が出来てから、中心市街地の店舗数は急激に減少し、現在もその数は減り続けている。商店街ではシャッターが閉じたままの店が増えている。

もともと歩いて周るのに適した構造を持つ商店街に、車は適しておらず、急速な車社会への転換について行く事が出来なかった。

→商店街の構造にあった利用を考えないと商店街の復活は出来ない。

■人の生活も賑わいを失った

その背景  
道が車中心に変わった

人通りが薄くなった中心市街地  
歩行者数が知久町での減少が続いている。りんご並木など一部のみ回復。

かつては道であらゆる活動が行われたが、車道が出来た人の追いつかれ、賑わいを失った。

■人々の交流の機会が減少

飯田の課題：弱体化する地場産業

■林業・農業  
高齢化や不在村化が進み、後継者の森林への関心が低下している。管理放棄地が増えると、飯田の豊かな山の植生も失われてしまう。農場でも少子高齢化の進行、農産物価格の低迷により荒廃化が進んでいる。

■工業  
伝統工芸品などの売上げが減少している。近年は飯田の強みである工業、地域に根付いている技術の応用に重点を置き異なる製品を作る技術を組み合わせる新産業を生み出す試みが行われている。

### 商店街と生活が相互に関係して賑わうために

■商店街は衰退してしまった。→ ■人と商店街をつなぐ  
■人の生活も賑わいを失った → ■人と道をつなぐ  
■人々の交流の機会が減少 → ■人と人をつなぐ

古来飯田の発展を担って来た【馬】を用いれば 全て解決出来る!

### 3つの“道”のデザイン提案

■馬道 -ひとと商店街をつなぐ      ■馬界線 -ひとと道をつなぐ      ■馬の駅 -ひととひとをつなぐ

中央通りと知久町通りの2本の商店街の街路を車を制限し歩行者のための空間にする。

・中央通り：  
駅からりんご並木に伸びる主軸

・知久町通り：  
大平街道へ伸びる歴史軸

と捉え整備する。道に出るだけでなく、人がまちなかへ歩いて行くように馬が人を誘う。

まちなかを通る裏界線を馬が通れる道にする。裏界線を馬が通れる道にすることで、りんご並木など飯田のまちを横切る道どうしをつなぐことができる。裏界線は人びとの生活空間が積み出している。馬を介して生活と馬界線も繋がる。

まちなかに歩行者及び馬の休憩施設として設ける馬の駅。ただの駅ではなく、それぞれに地区毎の特色を持ち、住人、観光客、お年寄り、若者など様々な人が立ち寄りたくなるような機能を持つ。この馬の駅を介して、道に出た人びとの間での交流を生む。

### 馬がもたらす+α: 結い

飯田の山を守る      飯田の斜面を利用する

【林業】      【農業】

手入れによって貴重なアカマツ林の保護      建築材として飯田の染料にも利用

車が入らないところに入って間伐材をまちなかへ運ぶ

【林業】      【農業】

手入れによって貴重なアカマツ林の保護      建築材として飯田の染料にも利用

車が入らないところに入って間伐材をまちなかへ運ぶ

飯田の新しい産業を作る

先端技術      おもちゃ屋

飯田の先端技術を使ってこれからの新しい需要となる、間伐材からウッドチップを作る機械の開発を行う。

既存の木製おもちゃ屋と協賛し飯田の山の木を使ったおもちゃを売り出す。

人形 飯田油 飯田和紙 飯田の人形づくりに、積極的に飯田の伝統工芸である和紙や油を用いることで、飯田の人形の特産品としての価値を高める

新聞社      飯田油

飯田の新聞社と協賛して中心市街地で夕刊を馬が運ぶようにする。「馬が運ぶ新聞」として宣伝になる。

農家と連携して、採集した果物や商品にならない作物を染料として使った仕組みを整える

### 馬と暮らすために必要なこと。

えさ：放牧・運動場として中央公園の全面に牧草を植える。普段は乗馬体験や乗馬レッスンが行われる。

ぼろ(馬糞)：市街地内の各地に設ける「ぼろぼくす」に一度溜めておき一日に一回肥のために運んでいく。肥だめ運ばれた馬糞はそこで半年寝かされた後、農業の肥料となる。

おしっこ：ウッドチップには馬尿のおいをおさえるヒノキ材を用いる。月に一度、ウッドチップ入れ替えを小中学校の生徒が集まって行う。ここで回収されたウッドチップも同じように肥料となる。

水：ご用水を駅前広場から二本の馬道に流す。また、中央公園の一部を開業にする。

馬具：各馬の駅と中央公園・厩舎に倉庫を置く。馬具は市街地内の皮革製品加工場で作る。

### 馬のマネジメント組織

新しい顧客の創出 後継者の育成が可能

日本トレッキング 馬の世話指導 乗馬指導

広告効果↑ 乗馬指導

飯田市      出資協力      知久町1~4丁目      中央通り1~4丁目

商栄会      教育機会提供      自治体      サポート      教育機会提供

馬の世話      小中学校      休日      中央馬場にて乗馬レッスン

人材協力↑      まちなか      シルバー人材      移動援助      馬と触れ合うセラピー効果

商栄会  
馬の購入や貸し出しなどを全体のマネジメントを行う。  
一商栄会から二人ずつ選出 5地区で10人の既奉行  
活動内容：  
週に一度、公民館に集まり活動する(餌の用意、掃除、等)月に一度、中央公園の馬の家でミーティングを行い、馬の管理について決める。

### 馬が飯田を結い直す

公民館      小学校      中学校      飯田産業センター

馬の導入を行った、新しい需要に応える産業

心を育てる教育 地域と繋がる教育

南信州観光協会      南信州農協      農家      商栄会

人々の新しい生活の一部が観光資源になる

馬を使った新しい観光地(馬り歩く)

本提案に関わってくる事業主体は合計30団体に及ぶ。馬によって空洞化の進んでいた市街地を舞台として、様々な主体が相互に関係し合い、飯田の結いを取戻す。